

平成 15 年度確率モデル期末試験問題

解答は、結果だけでなく、導出過程も要領よく記述すること。

- 1 . ある鎖は n 個のリングからなっている。個々のリングの強度はたがいに独立に同一のワイブル分布（テキスト p.21，問 1.4 を参照）

$$F(x) = 1 - \exp\left[-\left(\frac{x}{\eta}\right)^m\right]$$

にしたがっている。このとき鎖の強度分布を求めよ。

- 2 . 3 つの確率変数 X ， Y ， Z はたがいに独立に区間 $(0, 1)$ の一様分布にしたがう。

- 1) $X + Y$ の確率密度関数をたたみ込みで求めよ。
- 2) $X + Y + Z$ の確率密度関数をたたみこみで求めよ。

- 3 . ある資格試験は 2 科目からなり、これらの成績 X と Y は 2 次元正規分布にしたがい、そのパラメータは

$$\mu_x = 60, \mu_y = 70, \sigma_x = 6, \sigma_y = 8, \rho = 0.72$$

であるとする。

- 1) $P\{Y > 75 \mid X = 70\}$ を求めよ。
- 2) $P\{X + Y > 140\}$ を求めよ。

- 4 . 3 つの白玉と 3 つの黒玉が 2 つの箱に 3 つずつ分かれて入っている。1 回の交換においては、各箱からランダムに 1 つの玉を取り出し、それぞれをもとと違う箱に入れる。時点 n で、箱 1 に入っている白玉の数を X_n とする。連続する 2 時点の間で 1 回の交換を行う。 $\{X_n, n = 0, 1, 2, \dots\}$ の推移をマルコフ連鎖として表現し、 X_n の定常分布を求めよ。

略解

1. 鎖の強度は n 個のリングの強度における最小値としてモデル化できるので、その分布関数は

$$F_S(x) = 1 - [1 - F(x)]^n \\ = 1 - \left[\exp\left\{-\left(\frac{x}{\eta}\right)^m\right\} \right]^n = 1 - \exp\left\{-n\left(\frac{x}{\eta}\right)^m\right\}$$

で与えられる。

2.

- 1) $X + Y = T$ の確率密度関数は

$$0 \leq t \leq 1 \text{ のとき} \quad f_{X+Y}(t) = \int_0^t 1 \, dx = t$$

$$1 \leq t \leq 2 \text{ のとき} \quad f_{X+Y}(t) = \int_{t-1}^1 1 \, dx = 2 - t$$

- 2) $X + Y + Z = S$ の確率密度関数は

$0 \leq s \leq 1$ のとき、 $0 \leq t \leq s \leq 1$ なので

$$f_{X+Y+Z}(s) = \int_0^s t \, dt = \frac{1}{2}s^2$$

$1 \leq s \leq 2$ のとき、 $s-1 \leq t \leq 1$ と $1 \leq t \leq s$ で場合分けして

$$f_{X+Y+Z}(s) = \int_{s-1}^1 t \, dt + \int_1^s (2-t) \, dt = -t^2 + 3t - \frac{3}{2}$$

$2 \leq s \leq 3$ のとき、 $s-1 \leq t \leq 2$ なので

$$f_{X+Y+Z}(s) = \int_{s-1}^2 (2-t) \, dt = \frac{1}{2}t^2 - 3t + \frac{9}{2}$$

3.

- 1) 平均は $70 + 0.72 \times 8 \times (70 - 60) / 6 = 79.6$

$$\text{分散は } (1 - 0.72^2) \times 64 = 30.82$$

$$u = \frac{75 - 79.6}{\sqrt{30.82}} = -0.829 \quad \text{より求める確率は } 0.797$$

2) 平均は $60 + 70 = 130$

$$\text{分散は } 36 + 2 \times 0.72 \times 6 \times 8 + 64 = 169.12$$

$$u = \frac{140 - 130}{\sqrt{169.12}} = 0.769 \quad \text{より求める確率は } 0.224$$

4 . 推移確率行列は

$$\begin{array}{cccc} 0 & 1 & 0 & 0 \\ 1/9 & 4/9 & 4/9 & 0 \\ 0 & 4/9 & 4/9 & 1/9 \\ 0 & 0 & 1 & 0 \end{array}$$

である .

定常方程式

$$\pi_1 = \frac{1}{9}\pi_2$$

$$\pi_2 = \pi_1 + \frac{4}{9}\pi_2 + \frac{4}{9}\pi_3$$

$$\pi_3 = \frac{4}{9}\pi_2 + \frac{4}{9}\pi_3 + \pi_4$$

$$\pi_4 = \frac{1}{9}\pi_3$$

を全確率の制約

$$\pi_1 + \pi_2 + \pi_3 + \pi_4 = 1$$

のもとで解けば

$$\pi_1 = \frac{1}{20}, \quad \pi_2 = \frac{9}{20}, \quad \pi_3 = \frac{9}{20}, \quad \pi_4 = \frac{1}{20}$$

を得る .